

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社広島工場

(2) 事業所の所在地

広島県三原市沼田西町惣定247

(3) 業種

清涼飲料水の製造、加工および販売

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は令和3(2021)年を基準年度とし、令和6(2024)年度から令和12(2030)年度までの7年間とする。

3 計画の基本的な方向

【CCBJHグループの非財務目標「CSV Goals」】

私たちは具体的な非財務目標「CSV Goals」を定め、持続可能な事業と社会、そしてミッションの実現に向けて取り組みを進めています。「CSV Goals」の各項目の達成に向けては、バリューチェーン全体で取り組みを実施、進捗を確認し、着実に目標達成に歩みを進めています。

【水・エネルギー使用量削減の徹底】

- ・改善活動を通じたEUR/WURの目標達成
- ・設備投資による改善施策の提案と実行
- ・水資源脆弱性の評価と対応策の立案
- ・資材軽量化への対応

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和3（2021）年度	令和5（2023）年度
二酸化炭素	14,997	13,851

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF ₆ NF ₃)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

製造数量(kL)

単位：排出量(t-CO₂)、原単位量（kg等）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和3 (2021) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和12 (2030) 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	14, 997	154, 891	0. 10	10. 0	14, 417	163, 000	0. 09
非エネルギー起源CO ₂				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量	14, 997	154, 891	0. 10	10. 0	14, 417	163, 000	0. 09
エネルギー消費原単位 (原油換算kL)	-	-	0. 05	7. 6	-	-	0. 04
目標設定の考え方	本工場設立が令和2年度。 稼働後1年以上が経過した令和3(2021)年度を基準年度とし、 エネルギー消費原単位基準年度より年1%の削減率とする。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	都市ガス使用量の削減	原単位に基づき 前年度比 1 %削減	製造ライン製造工程、温度、CIP工程プロセス、ボイラ圧力最適化。保温ジャケットの設置、ボトルの軽量化によるエア圧低減。
2	電気使用量の削減		製造ライン充填、調合CIP工程プロセス最適化。
3	電気使用量の削減	購入電力を 1 %削減	オンサイトPPA導入。発電した電力を自家消費し、化石燃料由来の電力量を削減。
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

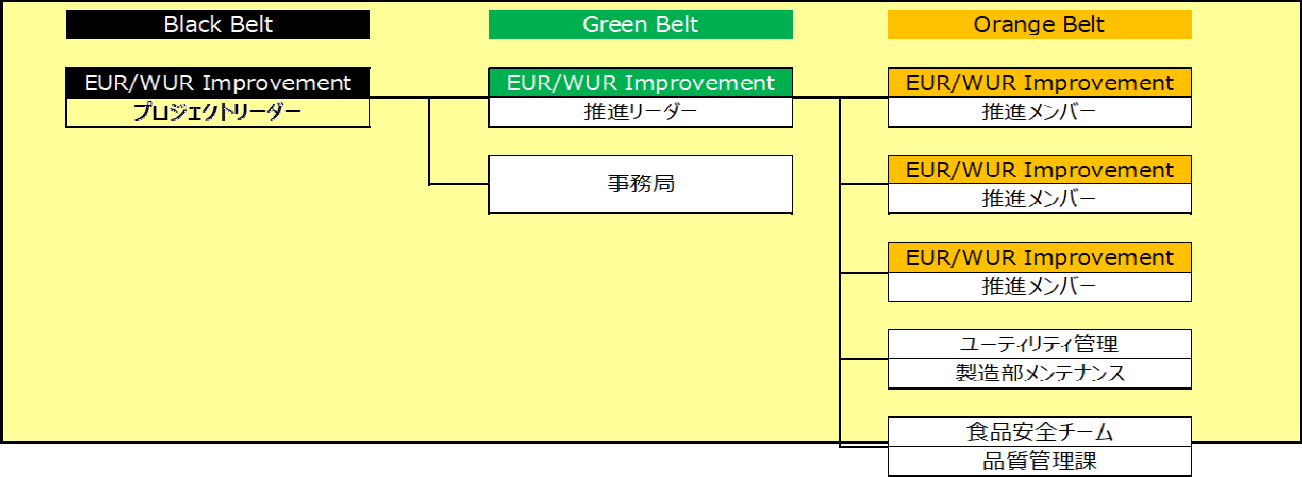
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	水使用・排水量の削減	原単位に基づき 前年度比 1 %削減	RO処理水工程、製造ラインCIP工程プロセス最適化。
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

目標達成と人材育成を両立させるため、活動範囲/大きさに応じて課題を4段階に区分し活動を推進する。

進捗管理/報告

チーム内で定期的な進捗管理を実施する

- 活動の方向性が間違っていないか？
- 現状の進捗に問題ないか

各フェーズの終了時に報連相を実施する。

- 進捗状況、および今後の活動予定を報告
- 次のフェーズに進むための合意を得る

DMAIC手法を用いて改善活動を行う

Define	Measure	Analyze	Improve	Control
チャーター作成、関係者と合意する	現状を調べる	根本原因を特定する	改善策を実行する	改善効果の確認、管理、定着を図る

プロジェクト終了

(3) 計画書等の公表

工場内掲示板にて定期的に進捗状況を掲示する

